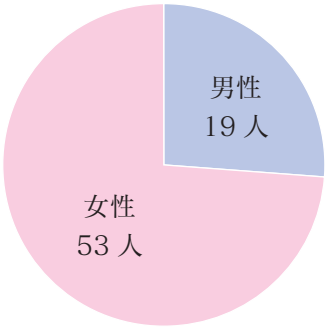
成果

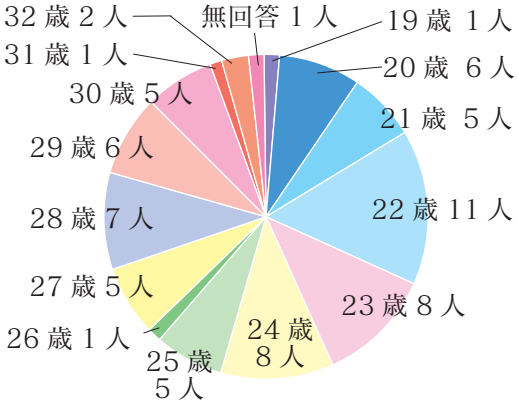
松浦市青少年親善使節団の派遣

市内の青少年の皆さんに、外国の文化、習慣、言語に接し国際的視野を広げていこうと始まった松浦市青少年親善使節団の派遣。マッカイ市と本市の姉妹都市提携20周年という節目を迎えるにあたり、平成20年9月、松浦市国際親善協会（髙橋博之会長）が、これまでの使節団派遣事業の成果を把握するため、第1回から第11回（平成4年度～14年度）に参加した使節団員165人に対し、その後の進路などについてアンケート調査を実施。72人から回答を得ました。

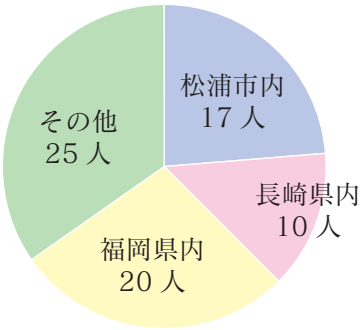
Q1 あなたの性別は？



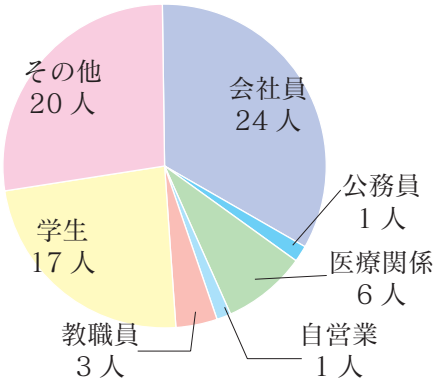
Q2 あなたの年齢は？



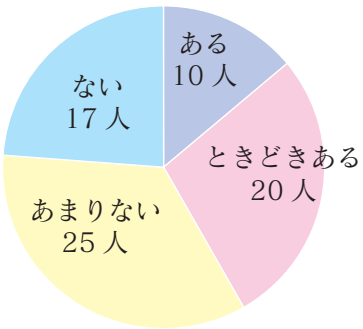
Q3 あなたの住所は？



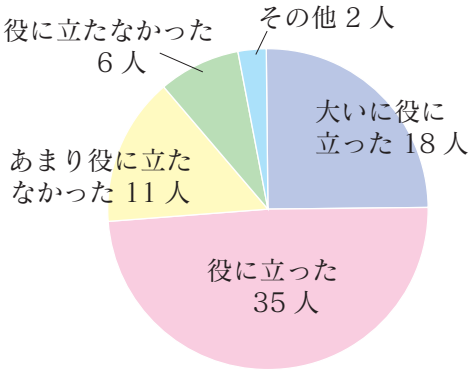
Q4 あなたの職業は？



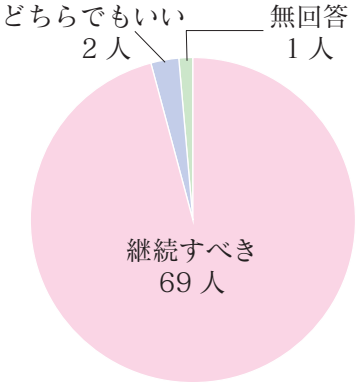
Q5 普段の生活で英語を使うことがありますか？



Q6 使節団に参加したことはあなたの進路に役立ちましたか？



Q7 今後もマッカイ市への青少年使節団派遣を継続すべきだと思いますか？



Q8 そう思うのはなぜですか？

○言葉が通じなくても、人とのコミュニケーションを取る楽しさ、どうにかしてコミュニケーションを取ろうと努力することが、英語を学ぶこと以外にも、その後の生活で役立つと思うから。

○異文化に触れることは、とても良い経験になった。海外に興味を持ったし、そのことで将来の夢につながったり、目標ができる子どもも出てくると思う。特に進路に影響しなくても、行くチャンスを与えて実際に行くことは大きな意味があると感じる。

○外国へ行って英語の中で生活したことで、大きな自信になったし、積極的に外国人に道案内をするようになった。すごく楽しかったし、勉強になったので、もっと多くの人たちに体験してほしい。

○国際交流の機会が少ない松浦の子どもたちにとって、他国でホームステイすることが、自己の世界観や視野を広げる絶好のチャンスであると思う。

○机上での勉強より、このような「経験」が子どもたちには必要であると思う。

Interview ～青少年親善使節団に参加して～

過去に松浦市青少年親善使節団として参加した人に、感想やその後の進路などについて実際に語ってもらいました。

久保 仁美 さん（22歳）

長崎市在住。
平成14年第11回青少年親善使節団に参加（中学3年時）。現在、長崎大学教育学部在学中。4月から福岡市内の小学校で勤務予定。

初めてオーストラリアに行って学校訪問をした時、日本の学校との違いにとても驚きました。このことが、私が学校教育に興味を持つきっかけとなり、小学校教諭になることにつながりました。

小学校では外国語教育も始まります。子どもたちに自分が経験し感じたことを伝え、子どもたちの視野が世界にも広がるきっかけになればと思っています。

青少年親善使節団での経験は、私のその後の進路に大きな影響を与えたものとなりました。

富永 和美 さん（29歳）

市内在住。
平成7年第4回青少年親善使節団に参加（中学2年時）。
現在、専業主婦。

青少年親善使節団での経験は、私にとっていろいろな人のつながりや経験ができ、人生の幅が広がりました。

このようなことがなければ、マッカイを訪れることもなければ、人との出会いもなかったでしょう。

ひとりでも多くの子どもたちが異文化に触れ、たくさんの人に出会い、それがなんらかの形で残っていけたらいいなと思うし、自分の子どもにもこのような経験をさせてあげたいと思います。

この交流がいつまでも続くことを願っています。

微笑 那奈子 さん（31歳）

福岡県在住。
平成5年第2回青少年親善使節団に参加（中学3年時）。
現在、旅行会社に勤務。

使節団に参加したことが縁となって、外国や英語に関心が強まり、英文科への進学、留学（アデレード、ロンドン）へとつながりました。現在は旅行会社に勤務し、当時、言葉が通じないからこそ学んだコミュニケーション術やこれまで勉強してきた英語力を生かして、海外のお客さまとも英語で対応するなど、仕事にもたいへん役に立っています。

青少年期という可能性を秘めた時期に外国の文化、習慣、言語に接することは大いに意義あることだと思うので、多くの後輩にも貴重な体験をしてほしいと思います。